

《資料》

広島県医師会禁煙推進委員会30年間の活動報告

松村 誠

広島県医師会禁煙推進委員会

1. はじめに

広島県医師会では、1980年(昭和55年)に禁煙推進委員会を会内に設置し、広く県民に喫煙の害と禁煙を呼びかけるとともに、会員には、本人と医療機関の禁煙推進および患者への禁煙指導の徹底等を行ってきた。また、行政等にも受動喫煙防止の観点から公共施設の敷地内禁煙を要望してきた。さらに、未成年者の喫煙防止教育も重点的に行ってきた。本委員会の30年間の禁煙推進活動を報告する。

2. 沿革

広島県医師会では、早くから各ブロック医師会より健康教育委員を選出し、地域の保健医療対策に取り組んできた。その関連組織として、1980年(昭和55年)、会内に禁煙推進小委員会が設置され、禁煙推進活動を繰り広げてきた(表1)。

1980年12月に、初の「禁煙講習会」を開催し、県内で禁煙運動を展開している医師が参集した。その後「禁煙推進座談会」を重ねるなど、活動の拠点作りに努めてきた。1985年、禁煙推進委員会が正式に組織され、同年7月20日、記念すべき「第1回市郡地区医師会禁煙推進連絡協議会」が開催され、その場において「広島県医師会の禁煙運動の基本」が制定された。その中で広島県医師会として、禁煙運動に協力すべき目標を、下記の通り定めた。

1. 広島県医師会の禁煙運動の実態を日本医師会に逐次報告し、日本医師会の禁煙活動を推進する。
2. 禁煙教育の推進：小・中・高校、職場の教育

に積極的に協力する。

3. 公共の場の禁煙促進：列車、航空機、病院、各種待合室、食堂、職場の禁煙場所の制定と拡大を図る。
4. タバコの広告と宣伝の禁止：国家百年の計より青少年の喫煙防止は最重点であるが、現在行われているタバコの広告・宣伝は主として青少年向けの画像であり文章である。速やかにタバコの広告・宣伝の禁止が望ましい。

そして、この4つの目標を、広島県医師会禁煙推進委員会並びに市郡地区医師会の禁煙推進委員が、全会員の協力を得て推進することとした。以後、当会では、この「広島県医師会の禁煙運動の基本」に則り、30年間禁煙推進活動が行われてきた。

3. 活動内容

出版等

広島県医師会では、県民を対象とした小冊子「健康シリーズ」を刊行しているが、その一環で、1972年(昭和47年)には「喫煙とその害」(和田直著)を刊行。その後、患者の禁煙教育資料として「たばこはこわい」「まだ吸っているの!!」を発行した。そして、1988年「それでもタバコを吸いますか」、1992年「タバコをやめますか 人間をやめますか」(図1)、2004年「禁煙指導アトラス2003」(図2)をそれぞれ出版している。これらの書籍は、患者への禁煙指導や禁煙外来での治療に役立つよう、全広島県医師会員に配布している。さらに、1985年2月からは、広島県医師会速報(毎月3回発行)に「禁煙コーナー」を設け、委員執筆による禁煙に対する随筆等を載せている。

学会・研修会・講習会等

学会・研修会・講習会等の活動としては、「たばこから子どもを守る医師と教師と親の会」研修会を、1988年(昭和63年)9月に第1回を開催し、現在も

連絡先

〒731-5136

広島市佐伯区楽々園2-2-19

松村循環器・外科医院 松村 誠

TEL: 082-921-0434 FAX: 082-921-0402

e-mail: mmcc@kk.ijj4u.or.jp

受付日2011年5月16日 採用日2011年8月23日

続行して開催している。特に第4回の研修会(1992年8月)は、全国禁煙教育研修会と併催で開かれた。また、日本禁煙推進医師歯科医師連盟が1992年

5月に発足し、2000年2月12日(土)・13日(日)に第9回日本禁煙推進医師歯科医師連盟総会が広島医師会館で開かれ、当委員会も大会運営に協力した。

表1 年表

広島県医師会禁煙推進委員会の歩み		
1980年	昭和55年	「禁煙推進小委員会」設置
1980年12月	昭和55年	初の「禁煙講習会」開催(「禁煙推進座談会」も兼ねる)
1981年	昭和56年	「あなたの健康ポスター」制作、市町村の公民館等の関係施設へ毎月送付
1985年	昭和60年	「禁煙推進委員会」設置
1985年2月	昭和60年	「広島県医師会速報」に『禁煙コーナー』欄を設ける
1985年7月	昭和60年	「第1回市郡地区医師会禁煙推進連絡協議会」開催 「広島県医師会の禁煙運動の基本」を制定し、隔年にて「医師会員の喫煙状況調査」の実施
1988年	昭和63年	「それでもタバコを吸いますか」出版
1988年9月	昭和63年	「第1回『たばこから子どもを守る医師と教師と親の会』研修会」開催
1992年8月	平成4年	「第9回全国禁煙教育研修会」(広島医師会館)開催
1992年10月	平成4年	「タバコやめますか 人間やめますか」出版
2000年2月	平成12年	「第9回日本禁煙推進医師歯科医師連盟総会」(広島医師会館)開催
2002年8月	平成14年	「広島県禁煙支援ネットワーク第1回総会・研修会」(広島医師会館)開催
2004年1月	平成16年	「禁煙指導アトラス2003」出版
2004年1月	平成16年	広島医師会館全館禁煙を実施
2006年7月	平成18年	「禁煙外来研修会」(広島医師会館)開催
2006年12月	平成18年	県民フォーラム「メタボリックシンドロームはこうすれば防げる！」 ～タバコを吸うあなたも、吸わないあなたも～(中国新聞ホール)開催
2007年6月	平成19年	広島県タクシー協会へ全タクシー禁煙化を要望
2007年7月	平成19年	保健医療従事者のための「禁煙指導研修会」(広島医師会館)開催
2007年10月	平成19年	庄原新庁舎の全面禁煙化を要望
2008年8月	平成20年	「第3回日本禁煙学会学術総会」(広島国際会議場)開催
2008年4月	平成20年	広島県タクシー協会が禁煙協力車を実施
2009年4月	平成21年	広島医師会館敷地内完全禁煙を実施
2010年4月	平成22年	広島県タクシー協会がタクシー全面禁煙化を実施
2010年5月	平成22年	広島県・広島市・日本ホテル協会へ禁煙化要望書を提出

2006年には、第3回日本禁煙学会総会を広島市の国際会議場で開催した。メインテーマは「地域ぐるみで取り組む禁煙活動」で、690人の参加があった。なお、学会期間中は広島市に申し入れをし、会場周辺の広島平和記念公園の全面禁煙化を実現した。

独自に主催した医療従事者対象の研修会としては、2002年8月に、広島県禁煙支援ネットワーク第1回総会・研修会を開催した。また、2006年4月からの禁煙治療の保険適用の際は、同年7月に「禁煙外来研修会」を、2007年7月には保険医療従事者のための「禁煙指導研修会」を開催した。さらに、2010年10月には、タバコ値上げによる禁煙外来の需要拡大を見越して、「禁煙外来研修会～ニコチン依存症管理料 保険請求のポイント」を開催し、県内の禁煙外来を実施する医療機関の増加を目指している。

また、一般の県民向けには、2006年12月には県民フォーラム「メタボリックシンドロームはこうすれば防げる！～タバコを吸うあなたも、吸わないあなたも～」を中国新聞ホールで開催している。

このように、広島県医師会会員はもとより、医療従事者や一般の県民にも禁煙や禁煙指導についての各種研修会や講演会を開催し、喫煙の害や、禁煙指導

の方法を広報することで、禁煙推進を図っている。

禁煙要望

2001年(平成13年)からは、広島医師会館全館禁煙に向けての活動が本格化し、館内各団体への要望を始め、2004年1月から全館禁煙となり、2009年4月から敷地内完全禁煙となった。

それと同じくして、世界禁煙デー前日までに広島市・広島県の行政へも公共施設への全面禁煙を要望する活動を行い、2007年10月には、広島県庄原市の新庁舎の全面禁煙化を要望し、当初予定されていた喫煙ルームの排除など敷地内禁煙化に尽力した。これらの要望の結果、2010年、広島県庁は禁煙週間中(5月31日～6月6日)敷地内を禁煙とし、広島市役所は世界禁煙デーに広島平和記念公園を一日禁煙化した。2007年6月には広島県タクシー協会へ全タクシーの禁煙化要望を行い、その結果、2008年には広島県タクシー協会が禁煙協力車を実施、2010年4月からは県内95%のタクシーが禁煙となった。また、2010年には初めての試みとして、日本ホテル協会へも要望書を提出した。

今後とも、公共施設や各種団体への全面禁煙化実現のために、禁煙要望をつづけていきたいと考えている。



図1 書籍「タバコやめますか 人間やめますか」(1992年ごま書房発行)

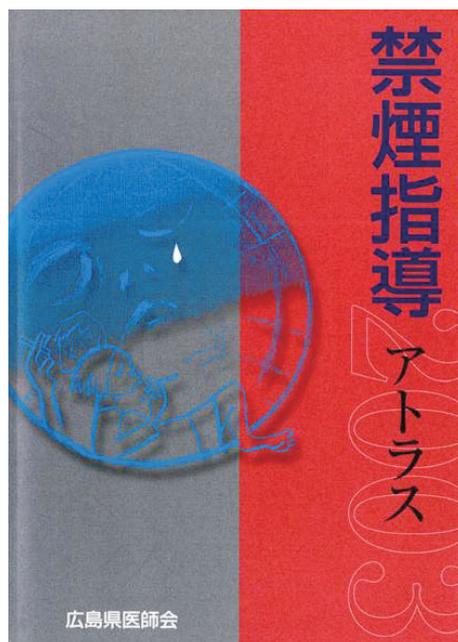


図2 書籍「禁煙指導アトラス」(2004年広島県医師会発行)

喫煙率調査

本会では、1984年(昭和59年)から「医師会員の喫煙状況調査」を隔年で実施し、当会の医師会員の喫煙率の調査を続けている。当初は、全会員に郵送で送っていたが、回答率が低いため、近年では全医師会員の中から無作為に300名(男性255名、女性45名)を抽出し、FAXで回答する形に変更した。

直近に行った2008年度の調査では、全医師会員6,471名(男性5,472名(85%)、女性999名(15%))の中から無作為に300名(男性255名(85%)、女性45名(15%))を抽出し、2009年1月～3月に調査票を送り、FAXでの回答を依頼した。調査方法は無記名回答とし、現喫煙者・非喫煙者・元喫煙者のいずれかにつき回答を求めた。その結果は、以下の通りである(表2)。

＜回答数＞

総 数：300名中242名(回答率80.7%)

男性医師：255名中205名(80.4%)

女性医師：45名中37名(82.2%)

＜喫煙者数＞

総 数：28名(喫煙率11.6%)

男性医師：27名(13.2%)

女性医師：1名(2.7%)

前回の2006年度の調査では、回答率は、男性98.0%、女性93.3%であり、喫煙者は、男性13.6%、女性0.0%であったので、男性医師の喫煙率は下がったが、女性医師の喫煙率が上がったため、総数では変わっていない。

ちなみに、2008年の国民の喫煙率(平成20年国民健康・栄養調査、平成21年11月厚生労働省)は、全体で21.8%、男性36.8%、女性9.1%であり、ま

た日本医師会員の喫煙率(第3回日本医師会喫煙率調査報告、平成21年2月日本医師会)では、男性医師15.0%、女性医師4.6%である。調査方法が異なるため直接比較することはできないが、広島県医師会員の喫煙率は、いずれにおいても全国的にみて、低い喫煙率であると言えるであろう。

また、広島県医師会員の喫煙率の推移を見ると、1984年が25.9%(回答率28.9%)、1986年21.2%(39.2%)、1989年20.1%(50.1%)、1992年19.6%(48.0%)、1994年12.7%(33.5%)、1996年12.1%(38.9%)、1998年12.0%(32.7%)、2002年12.5%(76.7% 無作為抽出法に変更)、2007年11.6%(97.3%)、2009年11.6%(80.7%)と徐々に低下している(図3)。調査を開始した1984年の25.9%に比し、直近の2009年の調査では11.6%と2分の1に著減している。日本人成人の喫煙率も年々低下しており、社会の趨勢を反映したものと考えられるが、広島県医師会員の喫煙率はそれをさらに上回っての低下を示している。このことは広島県医師会の30年間にわたる禁煙推進活動の成果であると考えたい。

しかし、世界で見ると、男性医師の喫煙率は、英国では2%(2000年)、米国3%(1991年)、スウェーデン6%(2001年)であり、欧米諸国の医師の喫煙率と比べると依然として日本の医師の喫煙率は高い水準にあり、尚一層の医師の禁煙推進活動を行っていく責務を痛感している。

4. まとめ

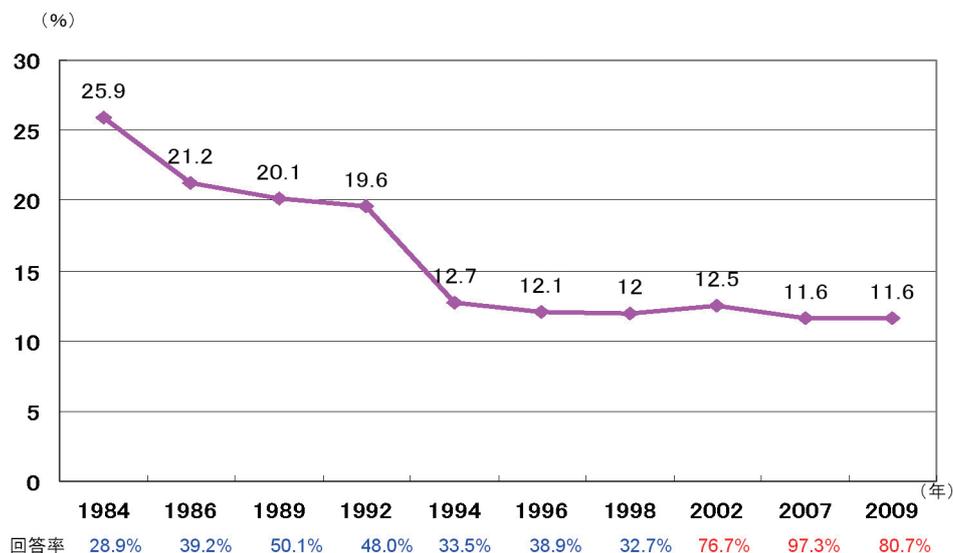
広島県医師会禁煙推進委員会は30年間にわたり、広島県内を中心に禁煙推進に取り組んできた。

本年度(2010年・平成22年度)、当会は以下の6

表2 広島県医師会員の喫煙率2009 調査結果(広島県医師会員の喫煙率調査2009より)

	回 答 (回答率)	喫煙者数	喫煙率	(参考1) 日本医師会員 2008喫煙率	(参考2) 国民 2008喫煙率
男性医師	205名／255名中 (80.4%)	27名	13.2%	15.0%	36.8%
女性医師	37名／45名中 (82.2%)	1名	2.7%	4.6%	9.1%
総 数	242名／300名中 (80.7%)	28名	11.6%	—	21.8%

2010.9.19 広島県医師会禁煙推進委員会



2010.9.19 広島県医師会禁煙推進委員会

図3 広島県医師会員の喫煙率グラフ(広島県医師会員の喫煙率調査2009より)

つを活動方針として掲げている。

1. 県民の命と健康をタバコの害から守る。
2. ニコチン依存症の予防・治療の普及を推進する。
3. 医療機関、保健福祉施設および公共施設の禁煙を推進する。
4. 医療機関、職域、地域および教育現場での禁煙指導を行う。
5. タバコの害に関する正しい知識を普及させる。
6. 内外の禁煙支援団体との連携を行う。

また、本年度の事業計画は、下記の通りであり、この事業計画に沿って日々の禁煙推進活動に取り組んでいる。

1. ホテルを対象とした喫煙状況調査
2. 会員に対する喫煙状況調査(2011年1~3月実施予定)
3. 県民フォーラムの開催(設立30周年記念)
4. 世界禁煙デーに向けての取り組み
5. 公共施設禁煙化についての活動

6. 行政への禁煙活動の要望
7. 健康ひろしま21への協力
8. 各種禁煙講演会への講師派遣
9. 内外研修会への参加(第5回日本禁煙学会口演)

これまでの30年間の活動で築いた礎のもと、今後とも尚一層の禁煙推進活動を行い、平和市長会議のスローガンである「2020年までに核兵器廃絶を」のスローガンの如く、広島県医師会禁煙推進委員は、「2020年までに地球を無煙環境に！」をスローガンとして、禁煙推進および患者への禁煙指導を行ってきたい。それとともに、受動喫煙防止のための公共施設等の禁煙要望等の活動も行っていきたいと考えている。

参考文献

- 1) 社団法人広島県医師会：広島県医師会史第Ⅱ編 2004；p987-998